

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

空欄補充・選択・記述・論述

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴

すべての論述設問に字数制限がなかった。4題のうち、2題がA・B分けであった。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	空欄補充 選択 記述 論述	タンパク質	生物	問6(1) 問題文に示された実験に基づいて、化合物Sが結合すると蛍光色素Kの蛍光が戻る実験を計画すればよい。	やや難
II	記述 論述	遺伝 遺伝子組換え	生物	問5 実験2では、卵を産んだ雌親はTGメダカであり「全ての細胞で緑色蛍光が観察される」とあることから、卵にも緑色蛍光タンパク質が含まれると考えられる。	やや難
III	空欄補充 選択 記述 論述	植物の環境応答 群落の生産	生物	問5 インゲンマメはマメ科植物であり、根粒菌が共生していることと、ここでのインゲンマメは蔓性であることから考える。	標準
IV	選択 記述 論述	進化 種間関係	生物	問6～8 種内競争の強弱は、その種の個体数の増減を介して、種間競争に影響を与える。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・さまざまな分野から出題されるので、全分野について学習しておこう。
- ・文章読解力を高め、実験問題やデータ考察問題を論理的に解析する能力を養い、論述のポイントなどを見抜く能力を高めよう。
- ・問題の分量が多いので、問題文を読解したり論述解答を手早くまとめるための演習を積んでおこう。
- ・遺伝子、遺伝計算は出題頻度が高い。また、生態、進化と系統分類は両方とも出題される頻度が高い。注意して、学習しておこう。